

# 校長会 みえ No. 62

●発行 三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内  
TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com  
●編集 三重県小中学校長会 広報委員会  
●印刷 光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



## 私の学校づくり

### 何気ないことから 深まりと広がりを



紀宝町立矢湫中学校 校長 立嶋 信雄

本校は三重県と和歌山県の境を流れる熊野川から太平洋を望む自然豊かな地域に在ります。生徒数は217名、子どもたちは、地域の中で大切に見守られながら「あいさつ、そうじ、時間を大切に、仲間とともに探究しながら自己を高める」という教育目標のもと、明るく前向きに学校生活を送っています。

この数年、新型コロナウイルスの感染・拡大によって学校生活は多くの制限を余儀なくされました。昨年本校に赴任して何ができるかと考えたとき、思い浮かんだのはホームページで子どもたちの様子を家庭や地域に知らせることでした。毎日、1タイトルを目標に授業の様子や学校での何気ない出来事を挙げるようにしましたが、続けていくうちに周囲からの意外な反応を感じるようになりました。まず先生方から「ブログいいですね。毎日観ます」、保護者からも「ブログ観てます。

子どもたちや学校の様子が変わっていいですね。続けてください」、教室の子どもたちも「あ、校長先生来た」という少し弾んだ声（気のせいかもしれませんが）。明るく人懐っこい本校生徒ならではの反応でしょうか。「そうか、ならば」と先生方に相談し、部活動や学校行事の様子をまちコミのタイムラインを使って紹介してもらうことにしました。

多くの学校で実践していただいている取組だと思いますが、私自身は気持ちの変化がありました。忙しくても授業を観に行くのが楽しみになりました。子どもたちと先生方の変化を観るのが楽しみになりました。先生たちと「あんなことしたいこんなことしたい」と相談するのが楽しみになりました。

本年度も、何気ないこと、当たり前に行っていることを深め、広げたいと考えています。



## 声は届く

三重県小中学校長会 会長

山下 隆久

令和5年度、三重県小中学校長会会長を務めさせていただきます。松阪市立嬉野中学校の山下隆久です。よろしくお

願いたします。

今年度の総会は久しぶりに参集して開催することができました。同じ空間で、今を共有することの有意義さを改めて感じました。それと同時に、昨年度末ご退職された校長先生方への「感謝の集い」を、昨年度に引き続いて中止にさせていただいた無念さも感じました。長年にわたるご功績に敬意を表しますとともに、様々なご指導ご示唆を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

「校長は各校に一人です。しかし孤立でも孤独でもありません。私たちは仲間です。誰も一人にしない校長会にしましょう。」と昨年度の松田会長がおっしゃられたことが忘れられません。

現在の高校1年生や小学4年生になった子どもたちは、入学して間もなく休校、分散登校という小中学校との出会いをしました。その後も人と人との繋がりを育むはずの様々な行事が中止や規模縮小を余儀なくされ、児童生徒たちは、学校はどうなるのだろう、自分たちはこの先どうなるのだろうという不安の中で過去3年間を過ごしてきました。

この不安は子どもたちだけではなく、われわれ教職員も同じでした。特に様々な決断を迫られる校長職にある私たちは多くの葛藤を抱えました。そのような決断の時、

うまくいかなくて苦い思いをした時など、話してホッとできたのが、この小中校長会の仲間でした。

新学習指導要領に基づいて教育を進める中、令和5年度の国の教育予算案ポイントは、「個別最適な学びと協働的な学びの実現」としてGIGAスクール構想の着実な推進、道徳教育や英語教育の充実、部活動の地域連携などが示され、また「誰もが学ぶことができる機会の保障」としては、いじめ・不登校対策等の推進や生涯を通じた障がい者の学びの推進などが盛り込まれました。このように学校が抱える課題が複雑化・多様化する現状に対応するとともに、「働き方改革」を進めることが求められています。

三重県では、令和3年3月にSDGsの考え方を取り入れた「第3次三重県男女共同参画基本計画」を策定し、令和4年5月には「差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例」を施行しました。

私たちは、ダイバーシティの視点をふまえた多様な主体の参画・活躍に向けた取組を展開していかなければなりません。校長会先輩の「声は届く」という言葉が示すように、密な連携で総力を結集する中で「声を集める」とともに、県および各市町教育委員会や関係機関等のご指導とご支援を賜りながら、様々な方々に「声を届ける」ことが教育諸課題の解決や克服につながると考えています。

アフターコロナで教育が問われている今、自らの専門性の向上に努め、学び続ける職能団体としての存在意義を高められるよう、この校長会へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 小学校部会



山中浩人(幹事) 林 康子(幹事) 濱野修二(幹事)  
佐藤直史(副部会長) 小林宏行(部会長) 宇仁田元(副部会長)

### 中学校部会



高岸三枝(幹事) 古市卓司(幹事) 山崎博史(幹事)  
齋藤孝太郎(副部会長) 山下隆久(会長) 上田章善(副部会長)

# 委員会活動

## 学校経営委員会

委員長 度会町立度会小学校長

### 水野 和久



昨年度までは、「特別委員会」として活動してきましたが、本年度より名称を「学校経営委員会」として、より実践を深めていきます。

価値観が多様化し、様々な教育課題がある中、本委員会では、児童生徒の生きる力を育む学校経営を実現するために、令和5年度は「確かな学力の育成」についての取組状況の情報交流を行ったり、子ども一人ひとりに確かな学力を育むために、「授業改善や学習内容の定着」に向けた取組の追究を行ったりしていきます。

10月24日(火)には「教育課題実践交流会」を実施します。グループ交流会では、校種・地域を考慮し、5～6人の小グループに分かれ、「授業改善・学習内容の定着に向けた取組」についての実践交流を行い、各学校・地域での取組や課題を交流し合います。

また、昨年度まで取り組んできたアンケート調査による実態把握は、今後も隔年で実施しながら、学びと課題の整理を行い、課題について改善・解消をするための話し合いを行っていきます。

参加される先生方にとって、互いに学び合える場となるような有意義な機会になればと考えています。

#### 〈活動方針〉

- (1)今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題（但し、進路指導、生徒指導の課題を除く）の解決に向けた研修を推進します。
- (2)生きる力を育む学校経営を実現するために、教育内容や教育課題等について各校の取組や各市町の状況を整理し、各市町の校長会へ発信するとともに、今後の取組について提言します。

## 進路指導委員会

委員長 松阪市立三雲中学校長

### 平野 修



これまでの地道な活動と県教育委員会のご理解により、県立高校入学者選抜のWeb出願や調査書の提出、可否のWeb発表等が実現しました。今後は、実施から見えてきた課題が解消されるよう、取組を進めてまいります。

進路指導委員会では県内各地域の状況を考慮しながら、公平公正な入試制度に向けた入学者選抜制度の改善、アフターコロナ下における受験機会の保障、高校活性化問題の改善等に努めてまいります。

以下に今年度の活動方針を示します。

#### 〈活動方針〉

- (1)児童生徒の理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目指す進路指導を推進します。
- (2)県内の小中間及び中高間において情報交換・意見交換に努めます。
- (3)三重県教育委員会・三重県立学校長会・三重県私学協会等の関係機関と協議し、現行入学者選抜の課題や入学者選抜制度、高校活性化問題等の改善に努めます。
- (4)キャリア教育についての研修に努めます。
- (5)ウィズコロナ、アフターコロナの状況下で、変化する受験状況に生徒・保護者が不安を感じることなく進路に向かえるよう、関係機関に聴き取り・要望・提案を行っていきます。

## 令和5年度 三重県小中学校長会 理事名簿

郡市名	会員数 (340)	小学校理事		会員数 (146)	中学校理事	
		名 前	学校名		名 前	学校名
桑名市・桑名郡	28	山本 太郎	伊曾島小	10	藪中 政雄	成徳中
いなべ市・員弁郡	17	平塚 晴彦	阿下喜小	6	三輪 敏哉	東員第二中
四日市市	37	松野 高彦	常磐小	22	森田 久	西陵中
三重郡	8	中村 公治	鵜川原小	4	宮崎 重光	菟野中
鈴鹿市	30	東浦 重人	井田川小	10	片岡 裕明	神戸中
亀山市	11	高宮 綾子	亀山南小	3	三谷 敏央	亀山中部中
津 市	50	田中 英	安濃小	20	川原田 元	朝陽中
松阪市	36	鈴木 純	中川小	11	藤本 伸一	松阪中部中
多気郡	14	濱口 秀樹	下御糸小	5	村田 功	多気中
伊勢市	22	西山 武	東大淀小	10	小林 貴法	厚生中
度会郡	12	水野 和久	度会小	6	作野 順也	大宮中
鳥羽市	6	齋藤 隆彦	安楽島小	4	西井 潔	加茂中
志摩市	7	小川 幸弘	鵜方小	6	古橋 雄洋	磯部中
伊賀市	18	林崎 勉	友生小	10	五百雀 豊	上野南中
名張市	14	前田かおり	桔梗が丘小	5	藤山 正道	名張南中
尾鷲市	5	大藤 明美	宮之上小	6	矢賀 正之	三船中
北牟婁郡	8	加藤有紀子	赤羽小			
熊野市	8	畑中 祥司	木本小	8	小林 信	御浜中
南牟婁郡	9	矢賀睦都恵	御浜小			

## 生徒指導委員会

委員長 松阪市立中部中学校長

### 藤本 伸一



生徒指導提要在改訂され、子どもたちを自分らしく生きることができる存在として育てていくための支え方が示されました。コロナ禍で、学校はこれまで築き上げてきた豊かな心の教育に足踏みをさせられました。本来、三密の中でこそ子どもたちの心は育ち、社会性や道徳心を培い、人格形成を図ってきたのだと思います。

アフターコロナとなった現在、教育の豊かさを取り戻すと同時に、不登校の子どもたちをはじめ、社会の中で生きづらさを感じている子どもたちの心をどのようにケアしていくのかが大きな課題になっていると思います。そこで生徒指導委員会は、次の活動方針及び計画を策定しました。校長先生方のご協力をよろしくお願いいたします。

#### 〈活動方針〉

- (1)生徒指導等の諸活動の解決に向けた取組と支援の在り方を追究します。
- (2)地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安心・安全な学校づくりに努めます。
- (3)県内各小中学校間の情報交換を行い、県校長会及び各市町の校長会にも発信していくような取組を進めます。

#### 〈活動内容〉

- (1)10月10日（火）生徒指導実践交流会の開催
- (2)各市町（校）の生徒指導についての情報交換

## 広報委員会

委員長 熊野市立木本小学校長

### 畑中 祥司



昨年の今頃、私は交通指導を兼ねて集団登校で学校に向かう子どもたちと共に毎朝、集合場所から歩いていました。その理由は通学路が県道脇の歩道で大型車等の交通量が多く危険だったからです。6月に近い時期で気温が高くなっていたので熱中症予防のために子どもたちにはマスクを外すよう指示していましたが、直ぐには外せない子もいて苦慮しました。そのとき、3年間のコロナ禍の影響の大きさについて考えさせられました。

本年度5月8日以降、感染予防対策を重視した学校運営から徐々に以前のような「学校のありかた」について思案し、協議

を重ねて体制を整えていることかと思えます。見直しや精選してきた行事等についても保護者、地域の方々と協議して最善策を探っている校長先生もいるのではないのでしょうか。また、この期間にICTを活用した教育実践を進化させた学校も多いのではないかと思います。

「校長会みえ」では学校の様々な取組や学校を取り巻く状況の変化、そして、解決すべき諸々の課題について実践を続ける各校長会の活動を伝えることによりそれぞれの職場の参考にして頂ければと考えております。

当該地区の理事を通じて依頼原稿を執筆していただく校長先生をはじめ、会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

#### 〈活動方針〉

- (1)会員の声を幅広く掲載するとともに、情報交換や情報収集の場となる紙面づくりに努めます。
- (2)広報活動を通して、会員相互の連携意識の更なる向上を図ります。

#### 〈活動内容〉

- (1)7月、2月に会報を発行します。
- (2)編集内容「私の学校づくり」「今日的課題の克服に向けて」「新任校長の声」「私の薦める一冊」「ちょっといい話」「地区校長会だより」など
- (3)紙面構成 8面、カラー印刷

## 教育環境委員会

委員長 津市立安濃小学校長

### 田中 英



専門委員会の改編により、令和5年度より「教育環境委員会」が県教育委員会事務局に対し、次年度に向けて要望活動を行います。

5月22日に第1回委員会を開催し、本年度の活動方針等について協議しました。活動方針は次のとおりです。

#### 〈活動方針〉

- (1)各郡市校長会を通して、県内全小中学校長から県教育委員会の施策や予算等に関する意見を集約します。また、要望の焦点化に努め「重点項目」を設定します。
- (2)集約した意見を「要望書・解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校教育の充実発展に資するよう要望活動を行います。
- (3)昨年度の要望活動を踏まえ、子ども・保護者・地域・教職員の具体的な事例に基づいて要望活動を行います。
- (4)取りまとめについては、昨年度までの確認事項を尊重しつつ、要望書の信頼性を高めるように努めます。

## 特別寄稿



### ～子どもたちの一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育の実現を目指して～

三重県教育委員会教育長  
福永 和伸

本年4月より三重県教育委員会教育長を拝命しています福永です。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 教育の「原点」について

私は、教育には、どれだけ時代が変化しようとも変えてはならない「原点」があると考えています。

それは、「教育は『詰め込むもの』ではなく、『引き出すもの』だ」という考え方です。

子どもは「無力」な存在で、生きるための力を大人が「授けてやる」のだと「詰め込み式」に教育をとらえるのではなく、子どもたちには成長の可能性がぎゅーり詰まっっていて、その可能性を「引き出す」のが教育だととらえる、ということです。

「詰め込む」のか「引き出す」のか、どちらの立場に立つかによって、教育のありようというのはとことん変わってきます。「引き出す」からこそ「子ども目線」が重視され、「一人ひとりの事情をふまえた対応」が求められるのだと思います。

ちなみに、教育は英語でeducationといいますが、この単語の基になっているのはeducareという動詞です。まさに「可能性を引き出す」という意味の言葉です。

私は、こうした認識のもと、「子どもたち一人ひとりの可能性を最大限に引き出す」ということを基本姿勢に据えながら、大きく3つのことに力を入れていきたいと考えています。

#### 激動の時代を生き抜いていく力の育成

1つ目は、この激動の時代を自分らしく生き抜いていく力を子どもたちに育みたいということです。

人口減少や高齢化、グローバル化がこれまで以上に進み、ま

た、超スマート社会が急速に進展する中で、「変動性、不確実性、複雑性、曖昧性」を特徴とする、将来予測の困難な時代が到来しようとしています。

情報通信技術、職業の姿、地域社会のあり方などがすさまじい勢いで変化する中、子どもたちがその変化の風を凜として受けとめ、他者との絆を大切にしながら、自分らしい未来を切り拓いていけるよう、力を尽くす必要があります。

具体的には、学力の育成、道徳教育等を基礎としつつ、ICT教育、キャリア教育、グローバル教育など社会変化に対処するための力の育成にしっかり目配りしていきたいと考えます。

#### 生きづらさを感じている子どもたちへの支援

2つ目は、生きづらさを感じている子どもたちの未来づくりを支えたいということです。

特別な支援を必要とする子どもたち、外国につながる子どもたち、不登校の子どもたちなど、誰一人取り残さず、皆が自立・社会参画し、輝く未来を築いていけるよう、支援していきたいと考えます。

また、いじめ問題の克服に向け、未然防止、正確な認知、迅速かつ適切な対応を図っていきます。

#### 教員という職業の輝きを取り戻すために

3つ目は、教員という職業の輝きを取り戻したいということです。

近年、教職を志す若者が減少しています。学校現場では教員の確保が困難となりつつあり、大変心苦しく感じているところ です。

志願者が一人でも増えるよう手を尽くしてはいますが、なかなか成果があがらないその背景には、教員の厳しい勤務実態等があるとされます。

教員という職業が大きな正念場にさしかかっている今、やりがいをもって働く教員の颯爽とした姿に憧れを持つ若者を増やしていけるよう、働き方改革、資質の向上、不祥事の根絶等に従来にも増して力を入れていきたいと強く思っています。

#### おわりに

今後とも、三重県小中学校長会の皆様をはじめ、教育に携わる方々と思いをひとつにしなが、学校・家庭・地域の連携・協働のもと、子どもたちの輝く未来の実現に向けて、全力を尽くしていきますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 令和5年度 研究大会

### ●第60回三重県小学校長教育研究大会

- ◆日時 令和5年7月27日(木) AM:全体会 PM:分科会
- ◆会場 三重県総合文化センター 中ホール (全体会)  
三重県総合文化センター内 各会場(分科会)  
※記念講演 「宇宙開発という挑戦 ～夢を持って学ぼう～」  
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)  
研究開発部門第一研究ユニット ユニット長  
HTV 1リードフライトディレクター 山中 浩二 様

### ●第60回三重県中学校長研究大会

- ◆日時 令和5年8月24日(木) AM:全体会 PM:分科会
- ◆会場 男女共同参画センター 多目的ホール (全体会)  
三重県総合文化センター内 各会場(分科会)  
※記念講演「ギャップが学びになる～地域での探究学習・実践型起業家マインド醸成からの生徒・支援者の成長過程～」  
ギャップで学習ナビゲーター代表  
株式会社Dream3.0執行役員 奥山 夢菜 様

### ◎全連小東京大会

・令和5年10月19日(木)・20日(金)・東京

### ◎東陸連小岐阜大会

・令和5年10月26日(木)・27日(金)・岐阜市

### ☆東陸連小三重大会

・令和7年10月9日(木)・10日(金)・三重県総合文化センター 他

### ◎全日中大分大会

・令和5年10月26日(木)・27日(金)・別府市

### ◎東陸中石川大会

・令和5年7月6日(木)・7日(金)・金沢市



## 笑顔あふれる学校に

伊勢市立進修小学校 校長

正木 靖宏

「おはようございます」毎朝、校門で登校して来る子どもたちと、元気にあいさつを交わします。子どもたちも、元気な声であいさつを返してくれます。運動場では始業前に、サッカーやブランコで遊ぶ子どもたちの姿も見られます。

その後、職員室で職員と朝のあいさつをし、学校のスタートを見守りながら一日が始まっていきます。授業が始まったころに、カメラを持ち校内をまわります。

子どもたちが、授業に集中している様子。自分の意見と友だちの意見を比べながら聞いている様子。体育で額に汗を浮かべながら、身体を動かしている様子…。「進修の子どもたちは、今学校でこんな風に過ごしています」と地域の方や保護者に伝えることで、地域・保護者とつながることができ、職員がさらに元気に子どもたちと向き合うことができるように、HPの更新を続けています。

学校生活で職員にも子どもたちにも一番大切にしてほしいこと、それは「笑顔でいること」だと思っています。学校全体が笑顔で過ごせるためにも、校長自ら笑顔で子どもたちや職員と接していくことを大切にしています。

そのために学校運営で大切にしていることがあります。

- ①子どもたちを知ること
- ②情報を共有すること
- ③学校の様子を地域・保護者に伝えること

子どもたちのことを知って、職員間で情報を共有する。そのことで、子どもへのかかわり方や行事等の取組がさらに良くなっていくと考えています。そして学校の様子を、地域や保護者の方に伝えていくことで、さらなる協力を願うことができると思っています。

コロナウイルス感染症が5類に移行され、学校教育活動も、変化の時期を迎えることでしょう。そんなときも、状況をしっかりと見極め、笑顔で学校運営にあたっていきます。



## ここにいま

四日市市立西朝明中学校 校長

諸岡 篤

本校の校歌のタイトルは「ここにいま」です。十年前の春まで勤務した学校に再度お世話になることとなりました。十

年たって職員も生徒も全て入れ替わり、校内の雰囲気もすっかり変わっていましたが、初日から、地域でも校内でも目的の場所まで迷わずに行けることは幸運でした。また4月当初に地域に挨拶回りに行くと、所々で懐かしい顔に出会うこととなり、昔話に花が咲く楽しいスタートでした。私が管理職を志すきっかけも本校でした。当時の校長に「あなたも様々な人に迷惑をかけてきたのだから、そろそろ後輩のために前に立つことも考えてみては」と声をかけられた時には、まだ先のことと感じていた私が「ここにいま」います。

ここでいま、目指すは「楽しい」学校です。当たり前なことですが、子どもたちにとっても、教員にとっても、「楽しい」と感じられる空間を作り出すことは決して容易なことではありません。学校には様々な課題が山積で、判断に迷うことも多いですが、そんな時には笑顔で「楽しい」といえる学校かどうかを考えるようにしています。三十数年前に教員を志した頃を思い出し、「ここにいま」いる子どもたちファーストの学校づくりに邁進します。



## なつかしい地での始まり

大台町立宮川中学校 校長

杉坂 真奈巳

「校長先生、お兄（姉）ちゃんのこと知ってますか？私の名前は覚えてくれましたか？」

全校生徒34人の宮川中学校で、3度目の勤務が始まりました。3年前まで勤めていた学校であり、当時の生徒の弟妹が多く通っています。31年前、初めて赴任した時に出会った生徒が、保護者となっています。なつかしい地で、新任校長として始めることができ、とてもうれしく感じています。

ただ、少子高齢化がいつそう進む中、生徒数は3年前と比べてもかなり減少しています。一人ひとりに目が届く環境であり、地域の人々に温かく見守られてすくすくと育っている子どもたちですが、少子化ゆえに存在する課題もあると感じます。また、新型コロナウイルス感染症の影響で奪われた機会があることも感じます。子どもたちの思いや願いをどうかなえていくか、義務教育の間にどんな力をつけることができるか、すべての教職員でしっかり議論していかなければならないと考えています。

「知っている地域だから」と3度目の勤務にうぬぼれることなく、現状をしっかり見つめて、よりよい教育活動を追求していききたいと思います。よろしくお願ひします。

# ちよつといい話



## 47年ぶりの再会

尾鷲市立賀田小学校 校長  
奥村 隆志

今から48年前、小学校1年生の時の話です。私は海山町立（現在は紀北町立）相賀小学校に入学しました。担任の先生は榎本先生。1年生の私たちから見たら落ち着いた女性の先生に見えましたが、まだ20代前半だったように思います。私たちを1年間担任し、次の年は4年生を担当した後、結婚を機に大阪に転勤しました。

月日が流れ、私も教員となり、校長として最初の学校が「賀田小学校」です。「賀田」という町が、榎本先生の出身地であることは知っていたので、「榎本」という苗字の人と会ったときには話題に出し、何か手掛かりはないかと探っていました。

賀田小学校の校区にはトチの木の群生地があり、学校の伝統行事として毎年「トチ餅作り」を行っています。地域の方々の協力も得ながらの取組ですが、その中の一人に「小川」さんがいます。その小川さんとの何気ない会話から、「その先生は私のいところです。」という思いもよらない返答が返ってきました。

3月の土曜日、朝から学校で仕事をしていると、1本の電話がかかってきました。「そちらに奥村校長先生はいらっしゃいますか?」「私ですが。」「たかし君。私、1年の時の担任の榎本です。」何と榎本先生からの電話でした。母親の法事で実家に帰ってきて、私の話を聞き、休みだが一か八か学校に電話してみたとのことでした。

47年ぶりに会った先生は、71歳になっていました。私も55歳ですから当たり前です。校長室で昔話に花が咲き、子どもたちのことを本当によく覚えていることに感心しました。また、当時の同僚だった先生方の話題になった時には、亡くなった方のことも伝えさせてもらいました。

恩師と教え子の関係は年月が経っても変わることはありません。校長になった私に「たかし君」と呼ぶのは失礼とおっしゃっていましたが、何か心地よい気持ちにさせてもらいました。

## 私の薦める一冊



## メモの魔力と学校

菟野町立鶴川原小学校 校長  
中村 公治

この4月、会社勤務を経て初めて学校で働く職員が着任しました。ある日、その職員がノートに何かを書き留めていました。直接子どもを指導する立場ではないので、特に仕事について何かを書き留めるようには指示はしていませんでした。そのため、何を書いているのか尋ねてみると、「次のために改善点を持つ」「他の職員の業務との関連が分かるようにする」、これらのために記録をしているとのことでした。

これまで会社では製造業に長年携わってきた中で、マニュアルにはない自分の経験を、忘れてしまう記憶ではなく、消えない記録、遡って辿れる記録として残すことを現場で教え込まれたそうです。ノートには、たった1カ月の間に、多くの手順や初めて聞く教育用語、それらを繋ぎ合わせて、次に自分が行いたいことが書かれていました。それはまさしく仕事が立体的に見えてくるノートでした。

子どもの記録をとっている職員は多いが、記録を繋ぎ合わせ、子どもへの次のアプローチのために、「生きた記録」にしている職員は多くいません。そこで、お薦めしたい本が『メモの魔力』です。著者はテレビ出演が多い前田裕二さんで、テレビ出演時でさえも、机上のメモ帳に何かを書いている姿を見かけます。

この書籍の中で前田さんは、「『言語化』で夢は現実になる」と書いています。前田さんは、言語化するために、記録の中から必要と思われることをつなぎ合わせ、新しい言葉に置き換えています。私たちが言語化するのは、子どもにどう育てほしいか、どういう力を付けたいかでしょう。そのために数々の記録を取り、子どもを立体的に捉え、明日の教育活動へと結び付けていくことが肝要です。こうした業務は、AIには決して真似できない、教師ならではの生きた営みであると私は思います。

私もまた、校長として、子どもや職員の記録をとり、「生きた学校づくり」としていきたいと思っています。

## 松阪市小学校長部会

## 未来を切り拓く力の育成に向けて

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山、北には雲出川、南には櫛田川が流れ、自然に恵まれた都市です。全国的に有名な“松阪牛”をはじめとし、伊勢茶など特産品や当時の面影をそのまま残す御城番屋敷、北海道の名付け親松浦武四郎、国内最大の船形埴輪など歴史ロマンにあふれ、多くの歴史街道が交差しています。また、子どもたちの夢や希望を叶えるために、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、教育力を高めながら、一体となって子どもたちが未来を切り拓く力を育むために、松阪の偉人「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」を指針として取組を進めています。

松阪市小学校長部会は、5つのブロックがあり、36校の小学校長で組織されています。市小学校長部会を年間8回開催しており、教育委員会からの所管事項説明、県校長会報告、諸課題について協議・連絡を行っています。ここ数年、学校現場では、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、その中でどのように子どもたちの学びを保障していくか、そのためのGIGAスクール構想をどのように進めるかなど、各校の取組の情報交換を行い、「チーム松阪」として対応を考え進めてきました。今後も各校長がお互い気軽に相談し、学校運営に関してのヒントや元気をもらえる関係を大切にしながら、共通する諸課題の解決に努め、松阪の子どもたちのために教育の充実と発展を目指していきます。



## 編集後記

先般、新型コロナが5類感染症へ移行となり、長らく続いたコロナ禍の間もようやく明けゆく兆しが垣間見えてまいりました。然は然り乍ら、まだまだ油断は禁物のようで、今後もしばらくは熱中症対策とともに神経を使う日々が、続くものと思われます。

さて、先日、古い資料を整理しておりますと、初任の頃、当時の校長先生から聴いた話のメモを見つけました。「黄金の釘」という言葉が心に沁みたくことを懐かしみ、調べると、「劫初より づくり営む殿堂に われも黄金の釘ひとつ打つ（与謝野晶子）」が出典であることが判りました。

## 鈴鹿市中学校長会

## 支え合う集団 鈴鹿市中学校長会

本年度、鈴鹿市中学校長会は新任校長2名、小学校長経験者2名の新しい顔ぶれを迎え、計10名でスタートしました。「支え合い、助け合う集団」、これが、私が3年間お世話になって感じた鈴鹿市中学校長会の印象です。

今でこそ(5月1日現在)、新型コロナウイルス感染症の影響はほとんどなくなり、学校の様子はほぼコロナ以前に戻りつつあります。私が校長になった令和2年度はコロナの感染拡大を受け、社会が大きく混乱しました。この影響は教育現場にも及び、未知のウイルスへの対応という難題を眼前にして、新任校長の肩に大きな重圧がのしかかりました。国、県、市からコロナ対応の指示は下りては来るものの、各校の実情に応じた対策を講じなくてはならず、一律で事が運ぶはずもありません。そんな時に大変助かったのが、先輩校長先生方のアドバイスでした。忙しいにも関わらず親身になって相談に乗っていただき、多くの困難な状況を何とか乗り切ってきたという実感があります。

また、市定例校長会後に行われる自主校長会においては、共通理解を図るための熟議、疑問や相談や情報交換と内容も多岐にわたり、毎回2時間ほどの話し合いになります。長時間に及びますが、垣根のない支え合う雰囲気があるからこそ、それぞれが意見を出し合える充実した会になっているのだと感じています。

鈴鹿の子どもたちのより良い成長を支えていくためにも、先輩方が築き上げてきた鈴鹿市中学校長会の「支えあい、助け合う」精神を継承していきたいと思えます。



先人が脈々と築きあげた文化の殿堂に釘一本なりと打ち込みたい、という情熱の歌人らしい信念溢れるこの歌を引用し、「教育の使命は人格の形成にある。心に響き、色褪せない、まさに、黄金の釘を打て!」という講話の主旨が鮮明に蘇りました。

学校を取り巻く社会は、われわれが初任の頃とは比較にならないほど激変し、先行きは不確かです。広報「校長会みえ」に寄せられた教育に係る情勢・動向、さらには先達から託され受け継いだ叡智・経験が、学校経営の縁となれば幸いです。